

観光振興対策特別委員会資料

平成30年11月30日
商工観光労働部



目 次

(頁数)

○宮崎県観光振興計画の改定について	-----	1
-------------------	-------	---

宮崎県観光振興計画の改定について

観光推進課

1 これまでの取組

2018年(H30)

5月	第1回宮崎県観光審議会	(本県観光の現状と課題)
6月	商工建設常任委員会	(改定について報告)
7月～9月	意見交換会	(市町村、市町村観光協会)
	取組の検証、現状分析、課題の抽出・整理、施策の方向性の検討	
10月	第2回観光審議会	(計画骨子案について)

2 課題等の整理

(1) 観光業界を取り巻く外的要因

《機会(チャンス)》

- ・観光ニーズの多様化
- ・規制緩和(ビザ、民泊等)
- ・LCCや海外定期航空路線の増便
- ・自転車活用推進法の制定・施行
- ・世界農業遺産、ユネスコエコパーク
- ・国文祭・芸文祭の本県開催
- ・個人観光客の増加
- ・インバウンドの急増
- ・東九州自動車道の開通(宮崎～北九州間)
- ・記紀編さん1300年
- ・ゴールデンスポーツイヤーズ

《脅威(ピンチ)》

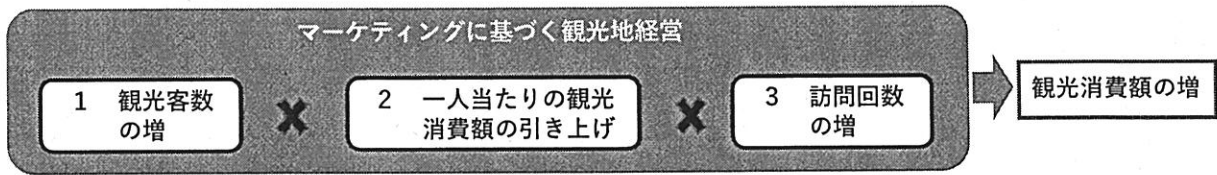
- ・人口減少
- ・地域間競争の激化
- ・公共交通機関の縮小
- ・自然災害
- ・消費税引き上げによる消費の低迷

(2) 統計データや市町村との意見交換等から見えてきた課題

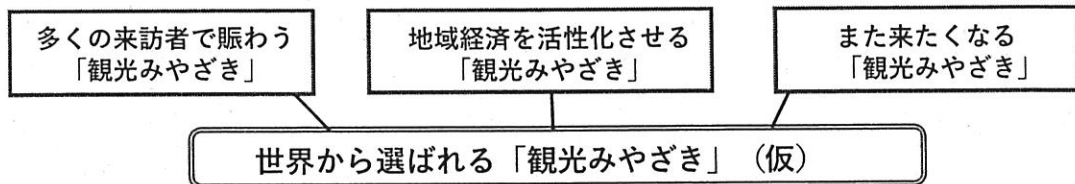
- ・多様化するニーズに対応した観光人材の育成及び確保が必要
- ・恒常的な観光データの収集と分析が不十分
- ・宿泊に結びつく魅力ある体験型観光メニューが少ない。
- ・食などの本県の強みが十分活かされていない。
- ・交通拠点と観光地との二次交通アクセスが不便
- ・情報発信力が弱い。
- ・多様な連携によるプロモーションが必要
- ・海外でのプロモーションが不十分
- ・WEBやSNSの更なる活用が必要
- ・ホームページの多言語化など訪日外国人の受入環境の整備が不十分
- ・キャンプ期間中の他の観光地への回遊性が低い。

3 計画の視点等

(1) 施策を推進する上での視点



(2) 本県観光の目指す姿



4 施策の方向性

(1) 持続可能な稼ぐ観光の基盤づくり

- ・ DMOを核としたマーケティングに基づく観光施策の推進
- ・ 地域の観光を牽引する人財の育成
- ・ 多様な産業との連携

(2) みやざきの強みを生かした魅力ある観光地づくり

- ・ 滞在時間を延ばす魅力ある観光コンテンツづくり
- ・ 閑散期の魅力創出による通年観光の推進
- ・ 「また来たくなる」受入体制の整備
- ・ 広域連携による周遊ルートの形成
- ・ 地域資源を活用した「世界ブランドのみやざき」づくり
- ・ みやざきMICEの推進

(3) 戦略的なプロモーション

- ・ 本県の強みの打ち出しとターゲットの明確化
- ・ 全九州や隣県等との広域的な連携
- ・ 交通機関など関係事業者との連携

(4) 外国人観光客の誘致の強化・推進

- ・ 訪日外国人にとって魅力ある観光コンテンツづくり
- ・ 外国人観光客の受入環境の整備促進
- ・ 海外におけるプロモーションの強化

(5) 「スポーツランドみやざき」の進化

- ・ 国際水準のスポーツの聖地としてのブランド力の向上
- ・ スポーツを活用した観光誘客の推進
- ・ スポーツキャンプ・合宿及びイベントの全県化・通年化・多種目化の推進

5 今後のスケジュール

2018年(H30)

11月 商工建設常任委員会 (骨子案の報告)

2019年(H31)

2月 第3回観光審議会 (計画素案について)

3月 商工建設常任委員会 (素案の報告)

パブリックコメントの実施

5月 第1回観光審議会 (最終案について)

6月 6月定例県議会 (議案提出)